

かわらばん 妻入り

事務局

新潟県出雲崎町

教育委員会

☎0258-78-2250

FAX 78-4559

『街並ギャラリー』開催!

7月6日(土)に開催した「街並ギャラリー」の模様をお伝えします。

これは、毎年当協議会が東京藝大生の出雲崎の様々な風景を描いたスケッチ画を出雲崎の「妻入りの街並」に展示し、「街並」と「スケッチ画」を一度に鑑賞していただくための、今年で9年目を迎えます。今回は、出雲崎に来てくださった皆さまにもっと「妻入りの街並」に親しんでもらおうと、『出雲崎「美食」街めぐり』と合同で実施をしました。「妻入りの町屋」だけでなく『出雲崎「美食」

街めぐり』を実施している店舗も展示会場とし、また展示する作品も藝大生のスケッチ画の他、出雲崎観光協会が主催している「出雲崎の四季フォトコンテスト」で入賞した優秀作品のパネルや、5月に「出雲崎を訪れて街並の絵を描いた絵画サークル「グループ墨」の皆さんの水墨画など約100点の作品をお借りして展示し、1日で延べ150人の方が作品を鑑賞していただきました。

この「街並ギャラリー」ですが、今年度はもう一回、10月27日(日)に実施される『出雲崎「美食」街

めぐり』とあわせて開催をする予定です。また、この他にも、フリーアナウンサーの青山佳世さんを講師に迎えた出雲崎の町めぐり等も企画しております。



協議会総会開催

去る6月4日(火)に、平成25年度出雲崎妻入りの街並景観推進

協議会総会を開催し、平成24年度の事業報告及び決算報告、平成25年度の事業計画及び予算、今年度の役員体制についての承認をいただきました。

昨年度は、東京藝大の大学院生及び大学生が出雲崎の町を描いたスケッチ画を、妻入りの町屋等に展示した街並ギャラリーや年3回の「かわらばん 妻入り」発行など様々な事業を行いました。今年度も昨年と同様、協議会会員が一人丸となって活動をしていきたいと思えます。

協議会の活動はA・B・Cの3グループに分かれて行っており、今年度の各グループの事業計画は、次のとおりです。

Aグループ

○先進地視察

街並がきれいに整備されている地区や、地域づくり・町の活性化に熱心に取り組んでいる地区への視察をいたします。

○空家・空地調査

海岸地区(尼瀬1区・井鼻4区)の街並の中に、空家になっている家などのぐらゐあるか等について調査をします。(現在、調査中です。4ページの「お知らせ」もご覧になってください。)

Bグループ

○おもしろ看板の設置

出雲崎の昔ばなしなどを書いた「おもしろ看板」を随時作成・設置し、地域の皆さんや町に散策に訪れた皆さんから楽しく『妻入りの街並』を歩いていただける様にしていきます。皆さんの知っている昔ばなし等がありましたら、情報をお寄せください。また、看板の設置場所を提供していただける方も募集しております。

Cグループ

○かわらばんの発行

当協議会の活動状況や街並の歴史、街並を見た人たちの感想など

出雲崎くまのこぞ

を載せた「かわらばん 妻入り」を発行し、「妻入りの街並」の魅力を発信してきます。(年3回、毎年四・八・一月に発行しております。)

今年四月、出雲崎小・中学校及び出雲崎町役場に全員で10人の方が新しく赴任をされました。当協議会では、そのうちお二人の方から、出雲崎町へ来ての感想をお伺いしました。

良寛生誕の地に勤務して

出雲崎小学校

校長 南雲敏行

私が初めて出雲崎を訪れたのは今から十年ほど前である。国道352号線の坂道を曲がり下ると目の前に海が広がり、眼下には妻入りの街並が見えた。それがとても印象的で、今でも鮮明にその風景を覚

えている。

その日の目的は天領の里。佐渡で掘り出された金銀が荷揚げされる幕府天領の出雲崎に以前から訪れたかった。当時の館長さんのお話をたくさん伺うことができた。巡見使、代官所、北国街道等々の江戸時代の出雲崎。石油開発が盛んになり日本石油が日本最初の機械掘を始めた明治時代の出雲崎。そして、良寛生誕の地であることも、その時に初めて知った。

今年四月、出雲崎小学校に赴任した。赴任した最初の日に、私が知る出雲崎は、海岸地域だったことに気付かされた。早速、校長室戸棚から小学校三・四年生社会で使用する「わたしたちの出雲崎町」を借り、夜寝る前に読みふけた。出雲崎の自然、歴史、仕事、生活などの概要がだんだん分かり、自慢できることが増えていった。

出雲崎小学校の自慢は三つの「地域」である。一つ目は「地域で学ぶ」。駅裏の畑でジャガイモ

を育てたり大釜谷の梅をもいだり、子どもたちは地域の学舎でダイナミックな学習を続けている。

二つ目は「地域を学ぶ」だ。カニ釣りや田植え等をしながら、地域の自然や産業を理解していく。

三つ目は「地域に学ぶ」である。昨年度、教育活動への協力者は延べ五百名ほどであった。一人一人の細やかな心がつながる地域が育んだ人間性や幾多の困難を乗り越えた逞しさ・優しさに、子どもたちは学びながら感化された。

社会の変化に伴って子どもの生活経験が狭まり、地域の連帯感や地域への愛着、誇り等も薄らぎがちな昨今である。地域全体で子どもにかかわり、地域の子どもの地域で育てる出雲崎の教育は、地域支援本部事業で強化され今に続く。有効活用を追究し、出雲崎らしさを一層深めていきたい。

俳句活動・良寛書道展に加え、良寛学習も実践し、良寛生誕の地をさらにアピールしたい。

出雲崎町の魅力

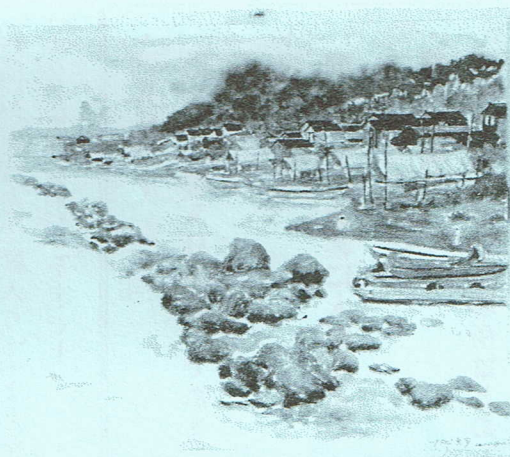
出雲崎中学校 渡辺 知子

出雲崎中学校に赴任して、四ヶ月が経ちました。多くの方々に支えていただき、ようやく新しい環境にも慣れてきたと感じる今日この頃です。

さて、出雲崎町というと、赴任する前からとても魅力的な町だと思っていました。今は亡き父と、何度か足を運ばせていただいています。海を眺めることや、釣りが大好きだった父は、私が幼い頃から、よく海に連れて行ってくれました。亡くなる少し前も、どこに行きたいかと聞くと、「海に行きたい。」というので、時間の許す限り、二人で海岸をドライブしました。出雲崎町の妻入りの街並、浜焼き、良寛様、夕日……。父は様々な出雲崎の魅力を私に教えてくれました。駐車で休憩をとると、日本海の彼方を、父が何も語らずにじっと眺めていた姿も忘れられま

せん。そのような思い出がいまでもずつと心に残っており、私も無性に海が見たくなる時があります。中学校から海岸に向かう坂道のカブを曲がると、広大な海が広がります。この風景も、本当に美しいと思います。緑から青にメインからが変わり、妻入りの街並がこの地に生きる人々の存在感を際立たせています。そして、行き交う人々を見れば、ゆっくりと時間が流れているような錯覚に陥ります。先日、部活動で三年生の引退に伴う懇親会に参加させていただきました。その際、夕暮れが近づくと、生徒が「夕日を見に行きます。」と言い、全員が嬉しそうに外に出ていきました。日が暮れるまでずっと、彼らは夕日を眺めていました。美しい風景と青春まつただなかの生徒の姿が、とても似合っていました。

これから過ごす出雲崎町での学校生活。出雲崎町の魅力を感じる分満喫したいと思っています。



妻入りの街(四十八)

住吉町 磯野 猛

出雲崎町が幕府により天領に指定されていた江戸時代、越後全般に天候不順による米の不作が続き、多くの餓死者を出す飢饉が幾たびもありました。そのうち有名なものとしては、世にいう『享保の飢饉』『天明の飢饉』そして『天保の大飢饉』これを江戸の三大飢饉と後世の人は云いました。

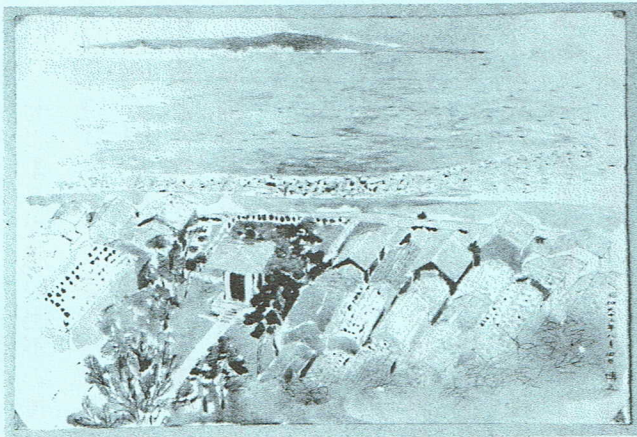
そのうち『天保の大飢饉』が始まった天保四年(一八三三)、幕府は全国に酒造米の量を三分の二にするよう通達して、米価の高騰を抑制しようとした。しかし打ち続く米の不作による米価の高騰を防ぐことはできず、全国的に生活困窮者が増加、飢饉に喘ぐようになりました。このような状況の中、出雲崎の代官所は飢餓貸付救助金の用意など、素早く管内の飢饉対策に乗り出しました。

また町民の方からもこの不景気を乗り切るための対策が取られました。天保五年(一八三三)三月、この不景気により稲荷神社の祭の参詣人が少なくなること心配した尼瀬・出雲崎両町の重立衆(おもだちしゅう)が相談をし、「三月十七日は両町共に祭日休とし、仕事をやらないで祭を盛り上げること」、「安米(イリゴ米)しか買えない者がいるため、両町とも小前者(こまえもの)へは一人につき米三合、無料で配ること」を決め

ました。祭りの当日、商店は店先へすだれを下げ休日とし、役所では赤飯（おこわ）を一包づつ配分しました。その結果、稲荷神社へは朝早くから晩まで参詣人が絶えず、赤飯は三千包作ったが足りずに追加したそうです。代官所の役人から米一俵、名主より米二俵、郡中役人よりササギ一俵、両町より米二俵と寄付があり、また両町名主と郡中役人が酒・赤飯を振る舞いました。

その後天保七年（一八四二）、同八年（一八四二）と不作が続きましたが、その都度町方の重立衆が応分の米を困窮者のために寄付したようです。ちなみに、天保八年の出雲崎代官所での飢餓貸付救助金は一万七千五百両となっていました。このときの代官は青山九八郎という人が勤めておりましたが、出雲崎では町方騒動（一揆・打毀など）にならなかつたとして、代官・役人・町の重立衆が幕府老中から表彰されています

しかし飢饉はなおも続き、天保八年、桑名藩の領地であった柏崎では生田萬（よろづ）という人が桑名藩の陣屋を襲撃・焼打ちをするという事件（生田萬の乱）がありました。この時も出雲崎代官所の手代・役人が柏崎へ出向き活躍しております。翌天保九年（一八四三）には佐渡でも一揆（天保佐渡一國騒動）があり、この時代は大変な時代でした。



お知らせ

『空家・空地調査』 ただいま調査中

当協議会では、「妻入りの街並」の現状について調査をしています。調査事項は次の二点です。現在、当協議会の会員が調査員として町中を回っておりますのでよろしくお願いいたします。

なお、調査結果については、次の「かわらばん 妻入り」（1月発行）で発表をする予定です。

- ・調査事項1
建物が「妻入りの家」であるか。
- ・調査事項2
現在、その建物に人が住んでいるか。
- ・調査事項3
空地になっている場所はどのくらいあるか

あとがき

残暑お見舞い申し上げます。今年も暑いですね。残暑が厳しくなるようです。昔はお盆が終わると徐々に暑さは和らいだように思います。

先日テレビで、熱中症についての放送をしていました。その中で解説されていた、間違った熱中症の予防について一つお話しいたします。クーラーを使用している部屋にいますと、熱中症にはならないように思いますが、クーラーは除湿機能があり、気がつかないうちに体の水分が奪われてしまいます。汗をかかなくなっても定期的に水分の補給をしてください。

補給する水分は水よりスポーツドリンクの方が適しているようです。お年寄りの中にはトイレが近くなるので、あまり水分をとらない人がいますが、体のために水分をとるようにしてください。

石井町 納谷 稔

今回は、事情により発行が1ヶ月遅れてしまいました。お詫び申し上げます。（事務局）